

項目	重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等	
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇児童や地域の実態を踏まえ、学校評価の結果等を生かして、創意工夫に満ちた特色ある教育活動を推進する。	カリキュラム・マネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	○PDCAサイクルを回しながら、行事等の改善が図られている。 ○教室だけの学びのみならず、積極的に校外の地域素材や歴史に触れる学習を大切に実施してきた。児童は、地域のよさを改めて実感することができた。 ○たてわり班活動を充実させることで、上級生の下級生に対する思いやりの心が育まれた。 △登校時刻と朝の活動開始時刻が重なってしまう児童がいた。(スクールバス2便目)	B	・スクールバスの運行時刻を5分早め、朝の活動開始時刻には、全員教室にいる状況をつくる。 ・次年度も地域素材、地域人材を生かした教育活動を行う。 ・たてわり班活動をさらに活性化させる。 ・今年度の反省をもとに次年度の教育課程の工夫改善を図る。	・地域を知る、家庭を知るとの目的で家庭訪問を是非実施してほしい。(やり方を検討) ・次年度以降もPTAや地域の協力を得ながら環境整備ができると良い。 ・あいさつや感謝の気持ち「ありがとう」は人としてとても大切なことである。子供たちがしっかりとできるように働きかけをしてほしい。
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇教職員の資質・能力、指導力の向上に努め、協働体制の構築と組織力の向上を図る。 ◇職員が自らの人間性や創造性を高め、児童に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、業務改善と勤務時間の適正化を図る。	適材適所 研修の充実 働き方改革	○校務分掌内で役割分担をするとともに、互いに協働しながらチーム江川として、業務を遂行することができている。 ○一人1授業による公開研究授業をはじめとして、互いに授業を参観するための取組がされていた。 ○各種アンケートや保護者出欠確認、保護者通知等にICTを活用したことで、集計作業や印刷の手間が省け、業務改善につながっている。 ○欠席等の連絡にICTアプリを利用したことにより、電話対応の時間が減少した。また、全職員が児童の状況を把握しやすくなった。 △勤務時間外の電話対応、保護者対応の時間が多かったり、急な打合せ等が入ったりして、教材研究や学級事務に充てる時間の確保に課題が残った。	B	・先進校の取組を参考に、本校として実践していけることを全職員で検討していく。 ・留守番電話の時間設定の見直しを図る。 ・働き方改革に関しては、今後も市教委と連携して取り組んでいく。 ・保護者の協力を得られるよう年度初めに丁寧に説明する。	・保護者アンケートを真摯に受け止め、改善策を検討し、よりよい江川小学校にしてほしい。 ・教育活動の充実に向けて、次年度も地域人材、地域素材を活用してほしい。
	環境整備	○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇安心・安全で潤いのある学校環境の整備・充実に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	○保護者の協力により、PTA親子緑の活動を年3回実施することができた。 ○市農政課の協力で、除草剤を散布していただき、大変ありがたかった。 ○定期的に安全点検を実施することができた。 △敷地が広いため、夏場は除草や草刈りが間に合わないことがあった。 △児童数の減少により、清掃担当箇所の児童数が少なく、隅々まで清掃することが困難になっている。	A	・清掃活動や除草作業、草刈り等について学校支援ボランティアや保護者の協力を得ながら行っていく。 ・児童による安全点検を実施していく。	
	地域連携	○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇学校・家庭・地域が連携・協働し、信頼関係を深め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	○地域と連携して教育活動を充実させることができた。 ○地域ボランティア、学習支援ボランティアの協力により、児童に寄り添った指導、支援ができた。 ○地域学校協働本部事業について、外部講師による研修を行うことで、地域とともにある学校の在り方を理解することができた。 ○地域学校協働本部推進委員や学校支援ボランティアの協力により、さつまいもやカボチャ、里芋栽培ができた。	A	・今年度の反省をもとに、次年度の活動計画を検討していく。	

知の教育	学習指導・各教科等	<p>○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。</p> <p>◇児童一人一人の実態を的確に把握し、個に応じた指導や教育的ニーズに応じた教育の充実に努める。</p>	主体的・対話的で深い学び	<p>○学習指導主任を中心として、全教職員が同一歩調で授業改善に取り組んだ。</p> <p>○家庭学習強調週間を設けたことで、家庭学習の習慣化を図れた児童が多かった。</p> <p>○家庭学習に家庭の協力を得ることができない児童に対して休み時間等を利用して、個別に支援してきた。</p> <p>△学習のきまりの再確認をしていく。</p>	B	<p>・家庭学習への家庭の協力を得るため、PTA総会や学年懇談会、学校だよりで保護者に知らせる。</p> <p>・教職員の授業改善、授業力向上に向けた研修を計画的に実施していく。</p> <p>・無担や管理職も児童の家庭学習の取組を確認し、児童へ称賛や励ましの言葉かけを行う。</p>	<p>・授業参観の際、児童の発表の声が小さく、何を言っているのか分からない。場に応じた声の大きさがあるので、普段から声を出す習慣を身に付ける指導をしてほしい。</p> <p>・声が大きいと元気な子供のように感じる。元気な子供たちであってほしい。</p>
	情報教育	<p>○一人一台の情報端末の有効活用に努める。</p> <p>◇各教科等でICT機器を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進するとともに、情報活用能力及び情報モラルの育成に努める。</p> <p>◇プログラミング教育の充実に努める。</p>	プログラミング教育 情報活用能力	<p>○各学年、まなびPCを積極的に使用した授業を行うことができている。</p> <p>○デジタル教科書や学習課題の投稿など、活用が図られている。</p> <p>△まなびPCの使い方の約束を守れない児童がいるので、正しい使い方について、その都度約束を確認した。</p>	B	<p>・情報モラル教育を行い、正しい使い方ができるように指導していく。</p> <p>・まなびPCを家庭学習で使用できるように毎日持ち帰る。</p>	
	国際教育	<p>○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>◇各教科等において、日本及び他国の文化を理解し、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えを表現できるコミュニケーション能力の育成に努める。</p>	SDGs 異文化理解 英語コミュニケーション	<p>○英語専科教員やALTによるより専門的な指導によって、児童の異文化理解やコミュニケーション能力が向上している。</p> <p>○郷土芸能クラブを設置し、伝統文化の継承に努めた。</p> <p>○外国語活動、外国語科では、ALTに日本や那須烏山市の文化を伝える学習を通してコミュニケーションを図ることができた。</p>	B	<p>・今年度の取組を次年度も継続していく。</p> <p>・教育活動全体を通して、国際理解教育を推進する。(全体計画の周知)</p>	

心の教育	児童・生徒指導	<p>○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇児童の内面理解に努め、児童に寄り添った指導や規律を守る指導を徹底するとともに、互いのよさを認め合い、高め合う楽しく居がいのある学年・学級、学校づくりを推進する。</p>	いじめ不登校自己指導能力キャリア教育	<p>○△各学級や委員会活動でのあいさつ運動などの取り組みにより、元気なあいさつができる児童が増えてきた。しかし、まだ課題が残る。</p> <p>○HyperQU検査の結果をもとに、学級や個に応じた指導支援を複数名で検討し、かつ全職員で情報を共有しながら対応し、未然防止に努めた。</p> <p>○こころのアンケート(月末)、心の健康観察(毎日)等を実施し、児童の悩み等の早期発見、早期解決に努めている。</p>	B	<p>・児童の悩みやトラブル等の対応が組織で行われる体制を構築していく。</p> <p>・不登校児童や教室不適用児童への対応は今後も保護者、関係機関と連携しながら対応していく。</p> <p>・次年度も心のアンケートや教育相談を実施し、問題行動の未然防止、早期発見に努める。</p> <p>・家庭や地域と連携したあいさつ運動に取り組む。</p>	<p>・教職員による評価ではA評価かもしれないが、保護者アンケートの結果を見ると、教職員の評価と差がある。保護者アンケート「3 本校はいじめの未然防止や早期対応等に適切に対応していると思いますか」に対して、11.3パーセントの保護者が否定的な意見である。その件に関して学校としては真摯に受け止め、いじめ問題にしっかり取り組んでほしい。</p> <p>例えば、 ①年度初めに本校としての取組の説明 ②日頃の丁寧な対応 等</p>
	特別支援教育	<p>○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。</p> <p>◇児童一人一人の実態を的確に把握し、個に応じた指導や教育的ニーズに応じた教育を充実する。</p>	インクルーシブユニバーサルデザイン合理的配慮自立活動	<p>○各教科とも「視覚化」を意識した授業を行うことで、誰もが分かる授業づくりに努めている。</p> <p>○個に応じた支援を行うことで、「できた」「わかった」を実感できる児童が増えている。</p> <p>○見通しをもって授業に取り組むことができるよう、授業の流れを提示した。</p> <p>○毎時間、授業の流れが分かる板書ができるよう教材研究を行った。</p> <p>○交流学級での学習を充実させるために、担任同士の情報交換をこまめに行い、合理的配慮に努めた支援をしてきた。</p>	B	<p>・交流学習時の情報を共有し、次時の学習に生かす。</p> <p>・今後も児童一人一人の個性に応じた指導支援を行う。(合理的配慮)</p> <p>・誰もが安心し、落ち着いて学習に取り組むことができる教室環境整備を行う。</p> <p>・個別指導を充実させるために、適切な教員数(支援員等)を市教委に要望する。</p>	
命の教育	健康教育	<p>○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇健康や安全について、よい生活習慣の形成を図り、児童が安全な環境の中で生活できるよう、教育環境の整備や健康安全教育の充実にも努める。</p>	保健教育保健管理	<p>○校内マラソン大会に向けて、児童一人一人に目標をもたせ、達成できるよう個に応じた働きかけを行った。その成果、多くの児童が目標に向かって一生懸命頑張る姿が見られた。</p> <p>○マラソン週間やなわとび週間、共遊などを通して体力づくりに取り組む児童が多かった。</p> <p>△メディアの使用時間が学年が上がるにつれて増加傾向にある。</p>	B	<p>・主運動につながる補助運動を各学年実践していく。</p> <p>・体力テストの結果を分析し、結果を洗い出す。結果から次年度に取り組む重点内容を今年度中に計画する。</p> <p>・運動する(体を動かす)楽しさを実感できる取組を児童とともに考え、実践する。(共遊、サーキットトレーニングなど)</p> <p>・メディアの使用については、学級活動や保健学習で指導するとともに、保護者の協力を得る。(学年懇談会等)</p>	<p>・小学校、中学校9年間スクールバスでの通学をする児童が多く体力低下が心配である。学校として、授業はもちろんのこと、授業以外でも体力づくりに積極的に取り組んでほしい。</p> <p>・保護者による児童の送迎が多いように感じる。送迎の際には、交通ルールを守り、安全運転をするよう保護者への呼びかけをすると良いと思う。</p>
	安全教育	<p>○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇安全に関する行事(交通安全教室・避難訓練等)を関係機関と連携して計画的に実施し、様々な場に応じて、安全な行動がとれる児童の育成に努める。</p>	危機管理生活・交通・災害安全	<p>○熱中症に対応した危機管理マニュアルを作成し、職員に周知した。</p> <p>○地域の実情に応じた避難訓練を関係機関と連携し、計画的に実施することができた。</p> <p>○心肺蘇生法の実技研修を実施したことで、職員の危機管理意識の向上を図ることができた。</p> <p>○熱中症対策として、こまめな水分補給、WBGT指数による屋外運動の禁止等を呼びかけ児童の意識を高めた。</p> <p>△スクールバスの安全な乗車について課題があった。</p>	A	<p>・乗車マナーについては、適宜指導するとともに、運転手と連携を図りながら対応していく。また、状況に応じて保護者の協力を得る。</p> <p>・危機管理マニュアルを定期的に確認し、実情に応じた対応ができるよう見直しを進める。</p> <p>・次年度以降も関係機関と連携した避難訓練を実施する。</p>	<p>・生涯スポーツにつながるような指導を小学生のうちからしてほしい。</p> <p>・夏でも室内で運動ができるように体育館にエアコンを設置してほしい。</p>
	食に関する指導	<p>○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇各教科等と関連を図った指導や、市栄養士による指導により、正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。</p>	給食管理アレルギー	<p>○栄養教諭や関係機関と連携し、食に関する指導を全学年で実施することができた。</p> <p>○食物アレルギー児童への対応を丁寧に行い、事故防止に努めた。</p> <p>△食事のマナー(箸の持ち方、お箸をもって食べる等)が身に付いていない児童がいる。</p>	A	<p>・食事のマナーについては、家庭と連携を図りながら対応する。</p> <p>・食育指導をさらに充実させる。</p> <p>・各教科等と関連を図った教科横断的な指導を充実させる。(計画の確認)</p>	